

子供が靴を反対に履く理由【1／2編】

ポイント1)小さい子供はそもそも「左右」が理解できない

まず大前提として、小さい子供にとって「左右」を理解するのは難しいと考えてください。「こっちが右だよ」「左はお茶碗を持つ方だよ」といった言い方で伝えることも多いと思います。でも、子供にとっては「そもそも右って何？」というレベルです。

左右の認識ができるようになるのは5歳前後。それまでは、わからなくて当然だという気持ちで関わってあげましょう。それよりもこの時期は、自分で履こうとするやる気、履けたことの喜びを育ててあげる方が大切です。自ら履けていれば、左右反対でも花マル。「一人で履けたね」といっばいほめてあげてください。

ポイント2)「あえて」左右反対に履くのはそれがラクだから

さて、お子さまの中には「あえて」左右反対に履いているケースもあるのではないのでしょうか。履く前は正しい位置に置いてあげたはずなのに、なぜか反対になっている……。それは、お子さまが「ラク」な方を選んでいるからかもしれません。たとえば、こんな理由です。

それは、「左右反対で履いた方がフィットする」ということです。

左右反対に靴を履くと、ちょっと窮屈ですよ。でも、これが子供にとっては良いフィット感である可能性も。すぐにサイズアウトする子供の靴は、つい大きめのものを選びがちです。大きい靴は、脱げそうでちょっと不安。だから、脱げないように、ピタッとはまるように、あえて反対に履くことがあるようなのです。